



病態を考えるもの、プライマリ・ケア重視の問題、治療の基礎と基本手技、各科の枠を超えた問題などが増えている。

- ⑤誤答のつけ方が工夫されており、選択肢の選び方にも注意が必要。
(卒業試験、模試その他でも、選択肢の選び方に慣れてもらう必要がある。)
- ⑥厚労省は“医師国家試験合格者”を絶対評価的に決めているのではなく、翌年度の研修医の給与費用の確保のために相対評価的に合格者数を予測しながら決めている。
- ⑦「医師国家試験出題基準（通称ガイドライン）」に初めて記載された内容からの出題が割とある傾向。
- ⑧計算問題や医学用語の英単語を問う問題なども出される傾向にあり。
- ⑨第107回の出題の分野別出題数ランキングは、公衆衛生＞循環器＞呼吸器＞小児科＞内分泌・代謝＞神経＞消化管＞産科＞医学総論＞精神科等。
- ⑩全国的にポリクリ移行前における“CBT (computer based training or testing)；コンピューター、ウェブを利用し基礎力のチェックが行える試験”をしっかり身につけさせることで、後のポリ

クリや国家試験にも良い影響を与えられる。

※Q&A

- ①「治療学」「公衆衛生」の新情報は、初年度であっても“夏までに出た情報”であれば出題される可能性あり。
- ②「治療学」は全分野で出る。
- ③琉大の学生レベルは高い（私立に比し。[まだMECは他国立系大学の関与はない。]）ので、“最新鋭の治療”も教えてよいだろう。
- ④学生に“最後の3ヵ月間”が短いことを意識させよう！
- ⑤“勉強が進んでいない学生”の「トラブル点」をキャッチしよう！

等々多くの情報を伺え、“医師国家試験”対策の重要性を重々感じることができました。

今後もさらに、琉球大学医学部医学科の国家試験合格率を上げるために、学生のみならず大学、教員、指導医、皆で取り組むべき課題が様々みえてきた講演会でした。

[by. 5期生；同窓会副会長；琉球大学医学部医学科 医学教育企画室；屋良さとみ]

